

日本人のルーツ

2023年7月18日

小林宜英

前回示した歴史年代

- 1, 神武元年 = 300年ごろ
- 2, 崇神元年 = 330年
- 3, 応神元年 = 390年
- 4, 百濟より七支刀372年
- 5, 広開土王碑391年 (辛卯年)
- 6, 雄略5年 = 476年 (武寧王墓)

1, 2は推定、3以降は史実

日本からの中国王朝への遣使

- ①倭の奴国王漢へ朝貢金印授受、57年
- ②倭国王師升漢へ生口160人、107年
- ③邪馬台国卑弥呼魏へ遣使、239年
- ④邪馬台国台与魏へ遣使、266年
- ⑤倭王賛、宋へ遣使再開、413年

④～⑤に中国への遣使なく空白の世紀
倭からの遣使は大陸の安定時を狙う。

日本書紀の総括

- (1) 我が国を古来からの由緒ある国と見せるために生起した年代を大幅に遡らせている
- (2) しかし生起した事象の経緯は何らかの史実に即している。
- (3) ただし神功皇后の巻は書紀成立時の女帝就位合理化を意図して大幅脚色がなされている。 首謀者：藤原不比等？
(天武—持統—文武—元明—元正—聖武) __は女帝
- (4) 中国への遣使の扱いが異なる。57、107はネグレクト、239、266の卑弥呼、台与の遣使は名前を記さず。対宋はネグる。隋・唐は記載がある。朝貢は屈辱との意識がある。

話を本日のテーマ「日本人のルーツ」にもどす。前頁のコメントを活かし、記載発生年次はともかく事象の経緯は史実に則っていると考えて、書紀記載内容を基本的に信用して話をすすめる。

神武東征（即位300年）はあった？

- (1) 塩土老翁より東に良き国ありと教えられ、日向より安芸、備前、を経て波速（難波）に上陸
- (2) 長脛彦の抵抗を受ける。ナガスネヒコはあなたが天孫ならどうして人の土地を奪うのか、現に自分はこの天孫に仕えている、と証拠の品を見せる。あにはからんや神武は天孫の持ち物である、と承認
- (3) 長脛彦が仕える饒速日は神武がこの土地の主人にふさわしいと承認、反対する長脛彦を殺して神武に帰順
- (4) 神武は橿原宮で即位、饒速日のその後は何も記されていない

海部氏系図と先代公事本記

天皇家	海部家	尾張家
天照大御神	天照大御神	天照大御神
アメノオシホミミ	アメノオシホミミ	アメノオシホミミ
瓊瓊杵（ににぎ）命	<u>天火明命</u> = 饒速日	<u>天火明命</u> = 饒速日
ホトオリ	アメノカゴヤマ	アメノカゴヤマ
神武天皇	アメノオシヒト	アメノオシヒト



弥生時代以来続く大陸から日本への渡来

- (1) 縄文時代を経て弥生時代以降大陸から日本への渡来相次ぐ
- (2) 饒速日伝説も大陸からの到来を示すものではないか？
(拙著：「正史そして埋もれた歴史」)
- (3) 弥生時代の始まり時期が遡っている。邪馬台国との関係？
(従来BC3世紀～300年、現在BC1000～3世紀中後半)
- (4) 当初の渡来ルートは日本海側であった。日本海側に到着した人々は温暖気候を求めて太平洋側に移動してくる。
- (5) 後代の話となるが、日本海側部族存在の証明、2例例示
 - ① 継体天皇の即位後にとられた新たな后を迎えた行動
 - ② 壬申の乱の論功行賞で「八色の姓」の最高位を得た氏族

弥生時代の墓制

- (1) 貼石墓、台状墓、方形周溝墓、卓上墓、4隅突出型墳丘墳など土を盛り上げた墳墓以外の前方後円墳に先んじる弥生墳墓がある。
- (2) テラス状の平坦面を持つ、貼石があるなど特徴点がある。
- (3) 前方後円墳に比して高低、大きさともはるかに低く小さい。
- (4) この間の墓制の共通性と編年についての研究者がいる。
- (5) 従来区分による弥生中期（BC100～AD100）から弥生後期（100～300）に見られそれ以降目立たなくなっていく。



日吉ヶ丘・明石墳墓群


ひよしがおか・あけしふんぼぐん



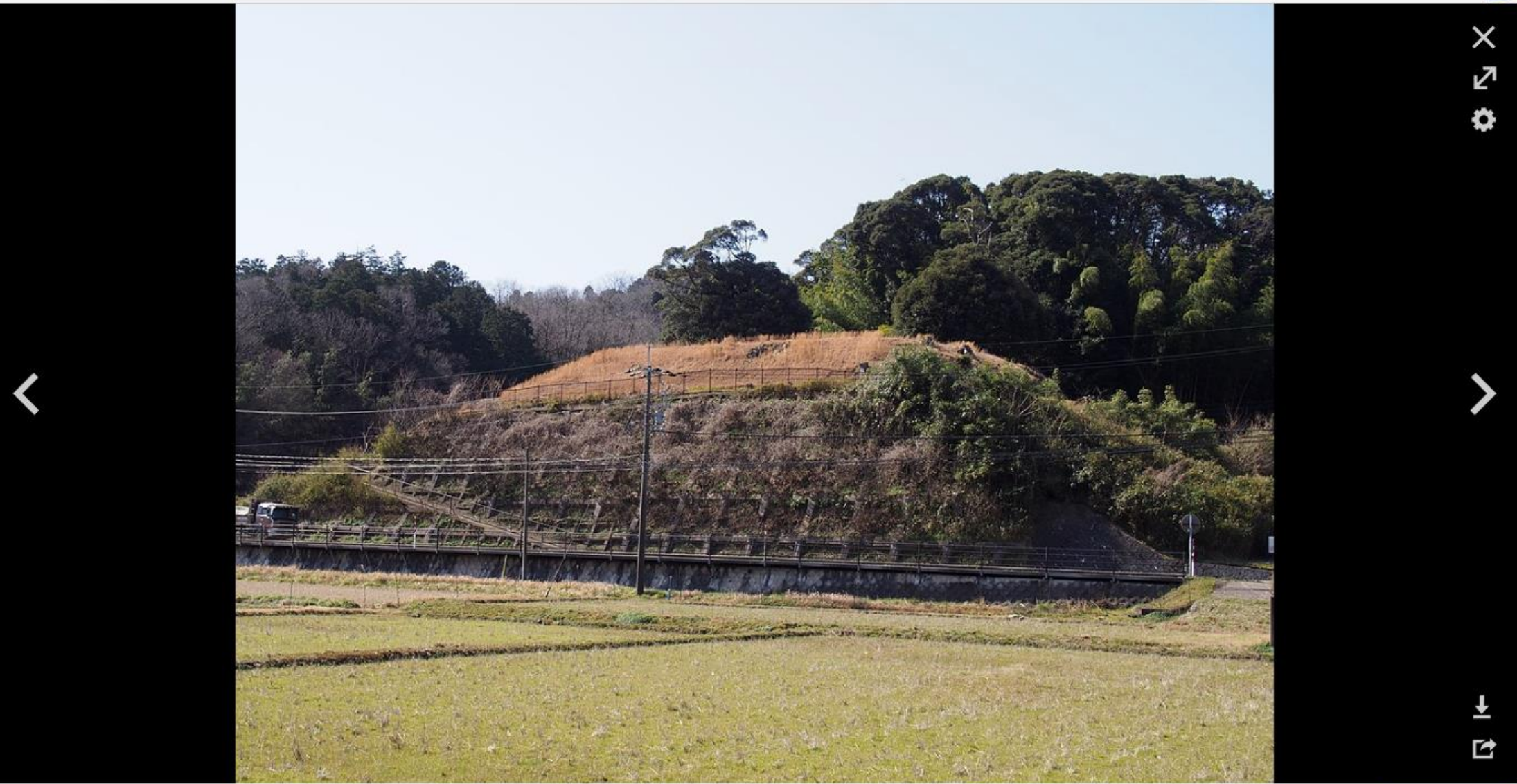


大室古墳群中最大規模の244号墳

 [詳細](#)

 小池 隆 - 投稿者自身による著作物

 CC 表示 3.0



東側からみた赤坂今井墳墓

 詳細

 VinayaMoto - 投稿者自身による著作物

 CC 表示-継承 4.0

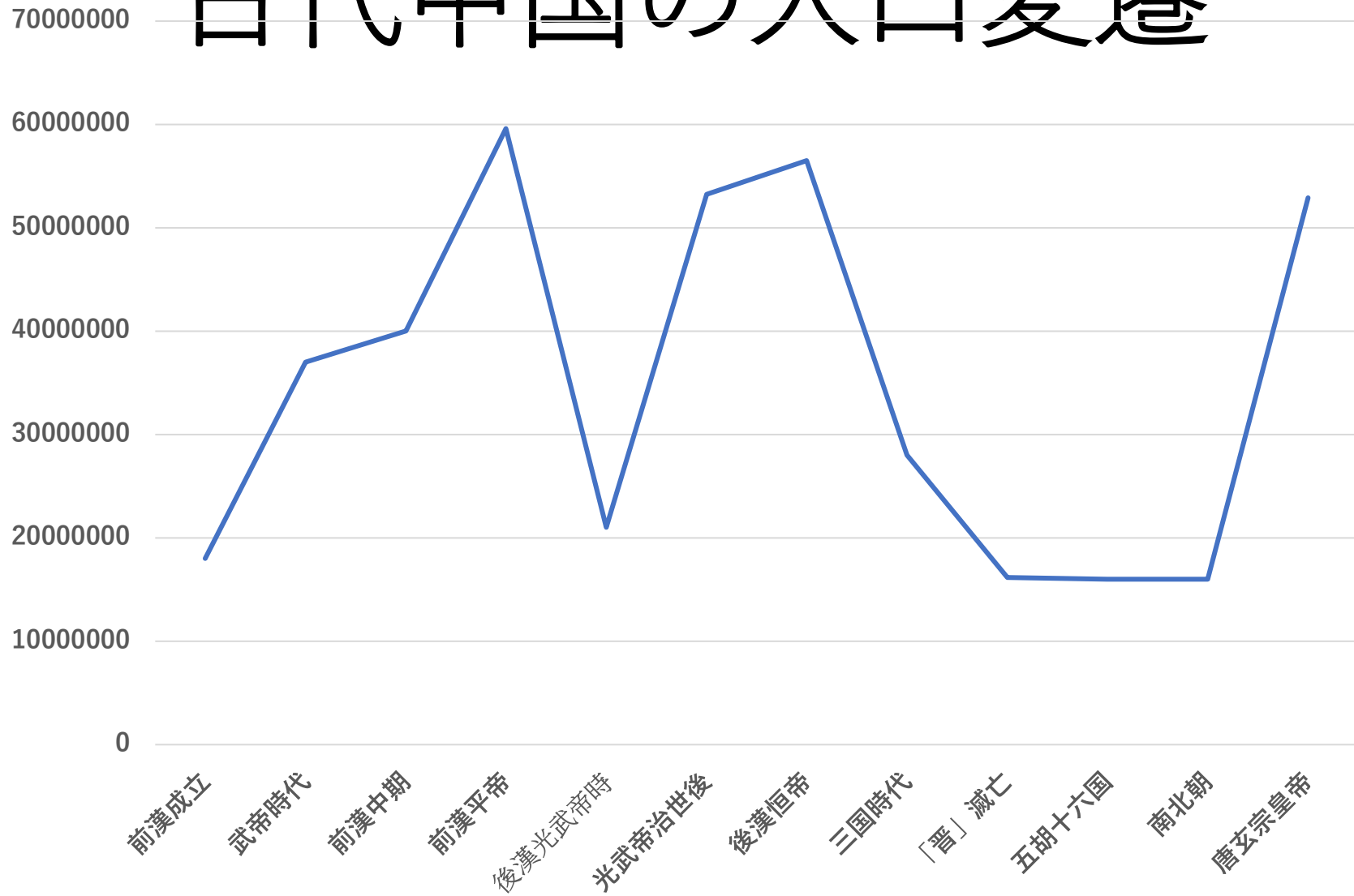
島根県西谷6号墳



4隅突出型墳丘墳の分布



古代中国の人口変遷

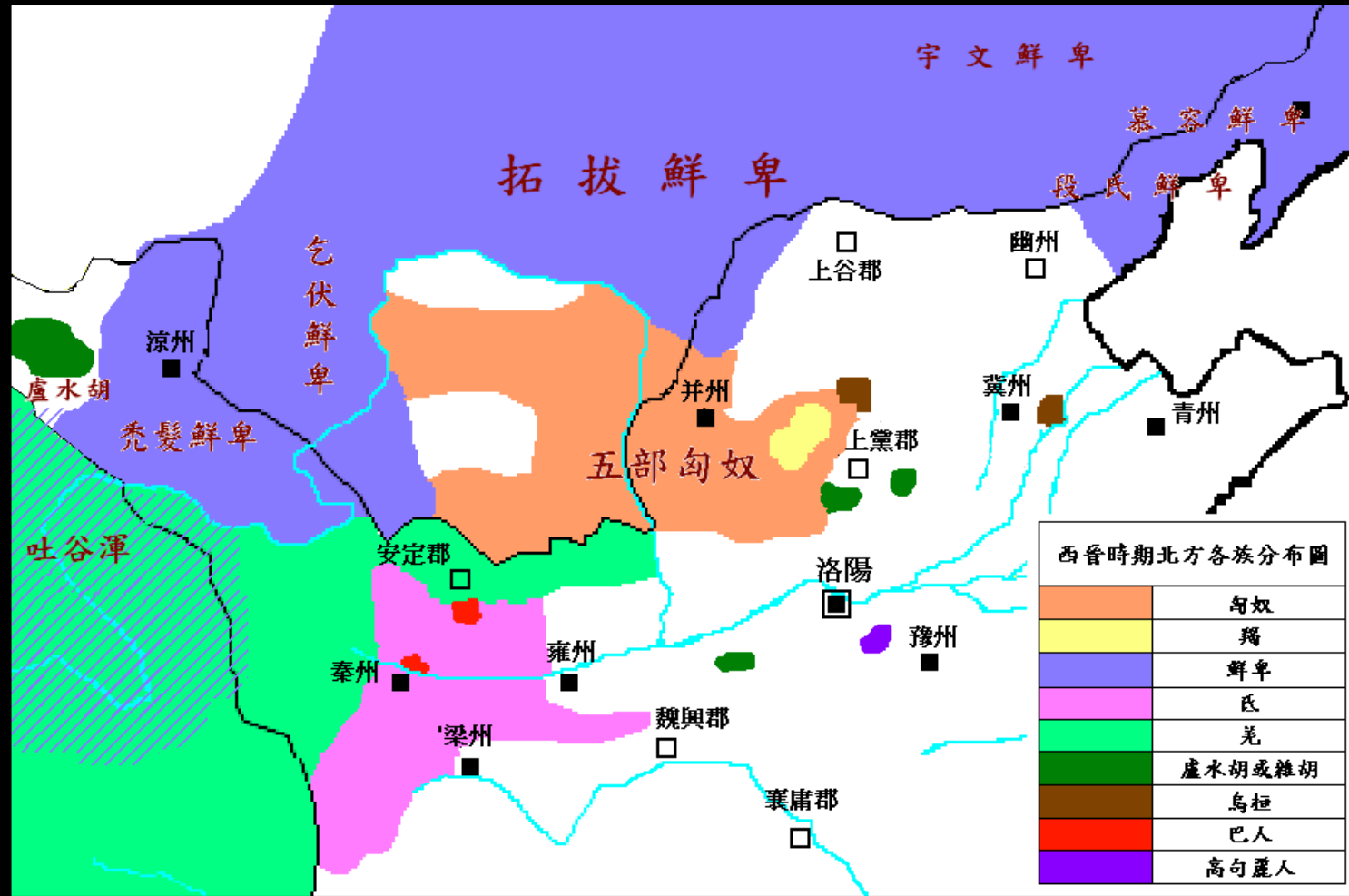


古代中国に於ける急激人口変動

- (1) 古代中国の人口急減期における状況を示す。ふたつの典型例。
 - ①前漢末から後漢に移る時期（日本では弥生中期 2年～57年）
 - ②後漢滅亡から3国時代を経て、晋、五胡十六国に移る時代。（220～316）
- (2) どちらも急減であるが①②の違い、①は漢民族の減、②は異民族支配時代
- (3) ①は日本では弥生時代に相当、②の後半は古墳時代に入ってくる。
- (4) 中国周辺異民族：匈奴・羯（トルコ系）鮮卑（モンゴル系）氏・姜（チベット系）……五胡を形成（3重構造説の時代背景）
- (5) 五胡十六国の開始時期304年（匈奴「漢」を樹立）日本の古墳時代に相当
- (6) 続く南北朝（439～589）の時代も日本では古墳時代に相当。五胡十六国—南北朝の時代を通じて中国は異民族優勢の時代であった。

東アジアの歴史を俯瞰

- (1) 時間軸として300年を中国、朝鮮、日本共通指標と設定して相互に及ぼした影響を考える。
 - ①日本：神武天皇は300年即位、崇神、応神へと軍事力強化（四道将軍の各地覇権、ヤマトタケル伝説）
 - ②百済の倭への七支刀贈呈は372年であった。369年高句麗に唯一の勝利、宋に加えて倭との同盟を図る。
 - ③新羅が高句麗と共に氏族の「前秦」に朝貢したのが377年。
 - ④「魏」の後の「晋」滅亡316年、漢民族は主役から後退
- (2) 異民族の渦中、氏族の前秦が覇を唱えたこともあったが、淝水の戦い（380年）で勢力ダウン、期間を通して盛んであったのはモンゴル系を由来とする鮮卑族の「北魏」。



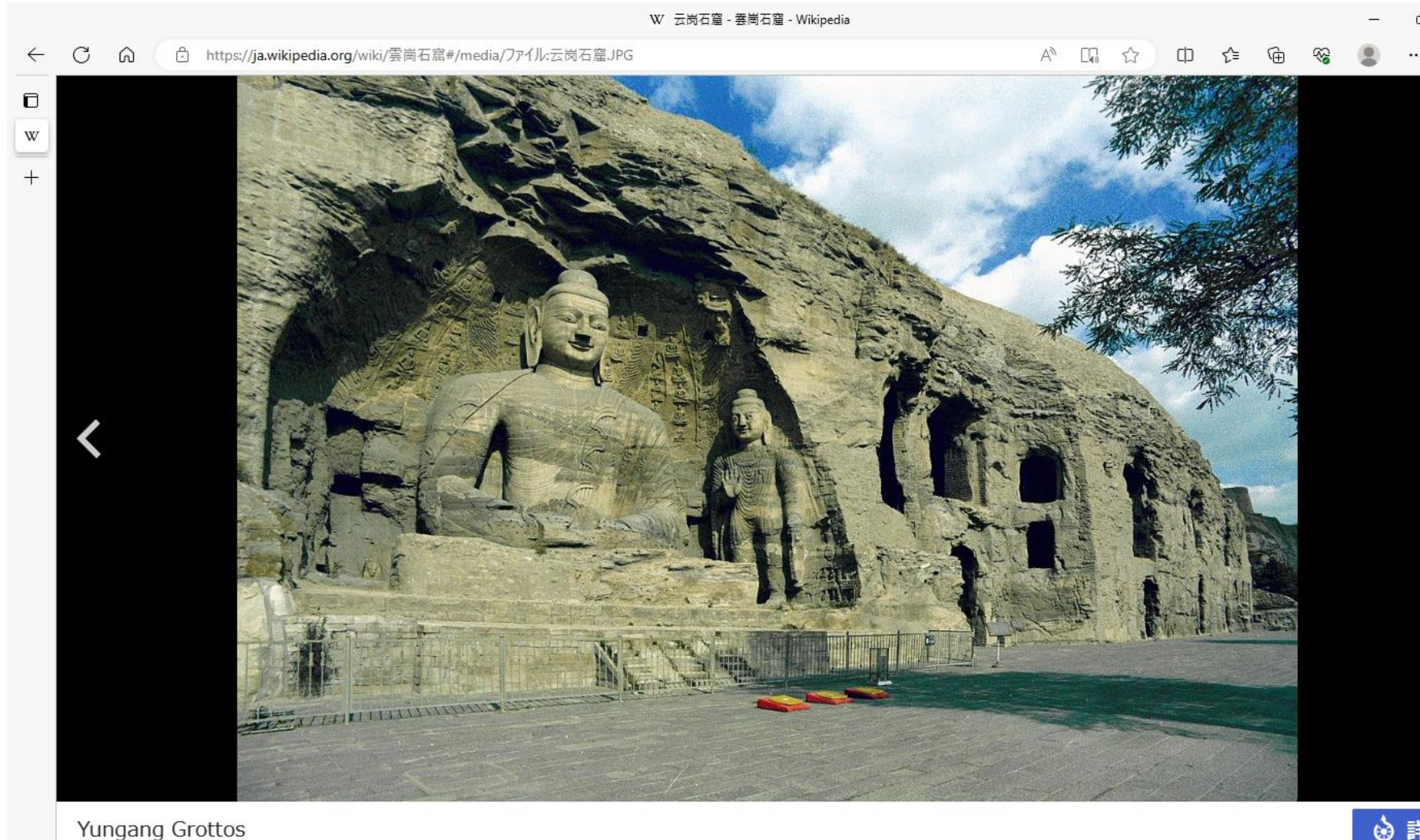
西晉時代の北方遊牧民族の領域

[詳細](#)

Original uploader was Jason22 at zh.wikipedia - Originally from zh.wikipedia; description page is/was here.

[パブリック・ドメイン](#) 規約を閲覧

雲崗遺跡（北魏様式）（仏教美術を通じて日本へも影響）

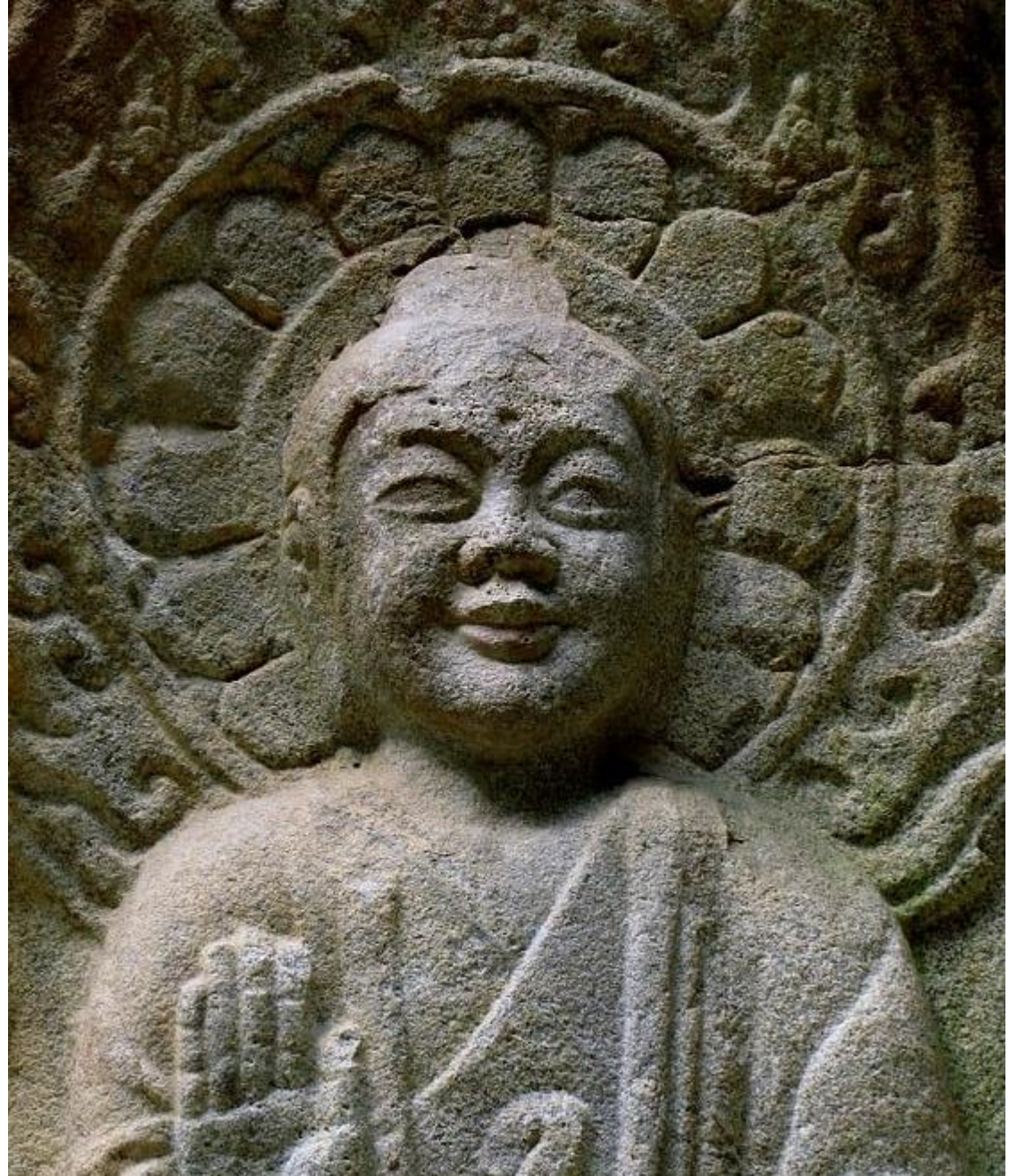


飛鳥寺





百濟瑞山の磨崖仏



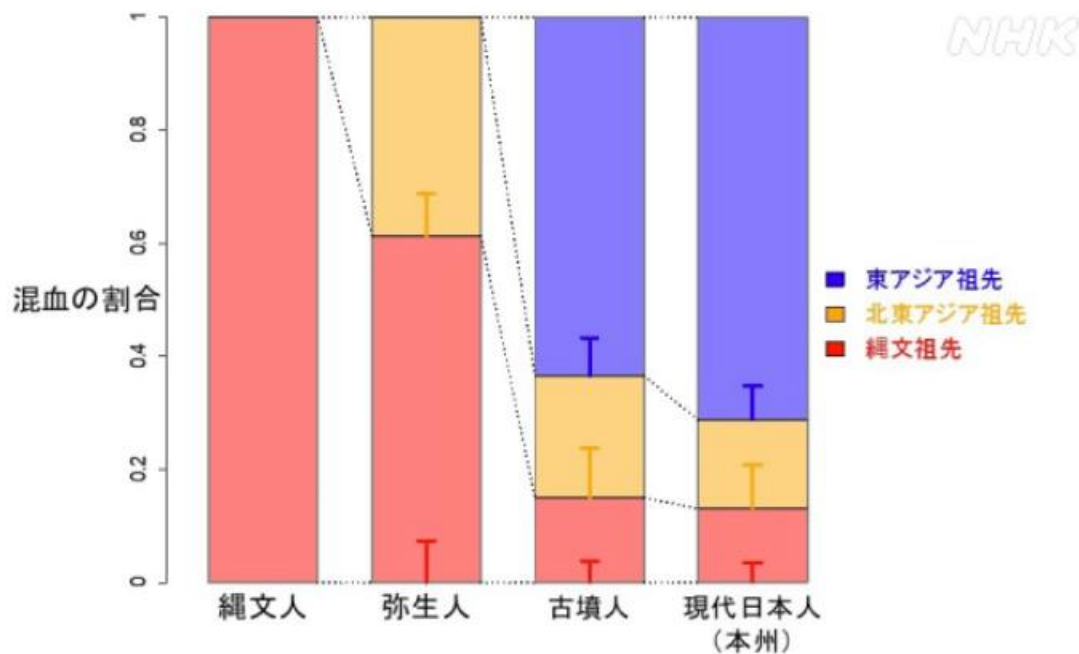
遺伝子解析の進展

- クリントンに始まり、オバマの時代まで3億ドルかけて完了した人間の全遺伝子解読の作業が1990年に完了した。
- その後次世代シーケンサーと呼ばれる読み取り装置とコロナで有名になったPCR法という培養技術により全遺伝子解析技術が急速進展した
- 従来y染色体遺伝子やミトコンドリア遺伝子など部分的な解読が中心だったが、全遺伝子解析可能に
- コストも一体あたり10万円以内で全遺伝子解析が可能になったと言われている。
- 各国で各人種の成立を探るのに遺伝子解析技術が有力手段となり、解析事例を競うようになった。
- 昨年縄文人と渡来弥生人の混血が日本人の源流とする「日本人の2重構造説」に加えて「古墳時代」からの影響を指摘する「3重構造説」が日本でも出てきた。
- 「3重構造説」はまだ解析事例数が少ないが、歴史との整合性がある有力説のように見える。

日本人がどのようにして成立してきたかについての科学技術による今後の進展に期待したい。

を持つ集団の遺伝情報が加わっていることが明らかになったということです。

現代日本人への道は



画像提供：金沢大学

NEXT ARTICLE

PREVIOUS ARTICLE

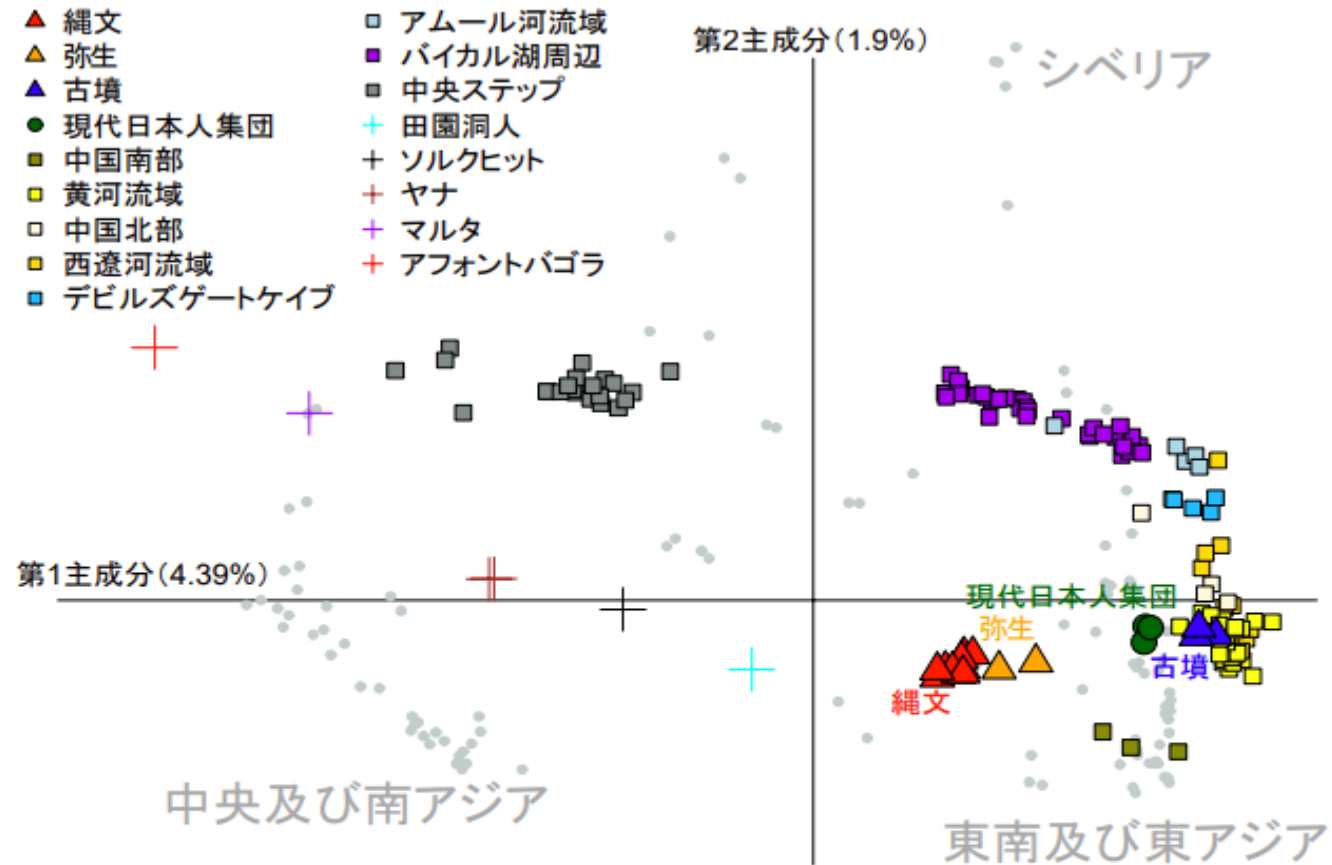


図2. 古人骨ゲノムデータの主成分分析 各プロットが個体を示しており、現代日本人集団を除くすべての現代人類集団は灰色で示されています。現代人は大きく3つのクラスターに分けられています：「中央及び南アジア」、「シベリア」、「東南及び東アジア」。遺跡出土古人骨に関しては、異なる形と色によって示しています。例えば、縄文人は赤色の三角形、弥生人はオレンジの三角形、古墳人は青色の三角形です。十字の個体は、すべて旧石器時代に由来します。この図から、縄文人・弥生人・古墳人と時代を追うごとに、大陸集団との遺伝的親和性が高くなっていることが分かります。